

タイトル：【茶室プロジェクト】お茶会に参加!!

こんにちは！学生プロジェクトの京都府立大学3回生 寺澤です。

5月26日(月)に、きょうとまるごとお茶の博覧会「茶室プロジェクト」の第2回目として、

茶室の専門家である京都建築専門学校副校長の桐浴邦夫さんと、茶室プロジェクトの主力となる京都市立芸術大学の方々が有斐斎弘道館で開催されたお茶会に参加されました。



まず、有斐斎弘道館代表理事で立命館大学食マネジメント学部教授の太田達さんに解説いただきながら実際に茶室や茶席に触れ、お茶会を五感で味わう経験をされました！



お茶会は、お茶席に入る前の待合から始まりました！

みなさん初めは緊張していましたが、なかには茶道経験者の方もおられ、頼もしかったです☆

床の間に飾ってあった掛け軸や今回のお茶菓子などについて興味の惹かれるお話ばかりでした。

その情報量に圧倒されながらも、みなさん楽しんでいたようでした！笑

その後、桐浴さんから、茶室についてのお話を伺いました！

茶室の起源は、室町時代まで遡るそうです。その当時の茶室は豪華絢爛なものだったそう。寝殿造に数寄屋建築が加わって現在の「わび・さび」な茶室となったようです👩

茶室づくりには、「自然の光の使い方と、茶室からのぞく景色の切り取りが大事である」などのお話を教えていただきました。

茶室をつくるときには、光と景色の見せるおもしろさを味わってもらえるものにしたいですね。



学生からは「何があれば茶室といえるのか」と茶室の定義に関する疑問が出ていました。桐浴さんいわく、茶室に明確な定義はなく、例えば、床の間や畳がなくとも、お手前が成立するのであれば、その空間・建物は茶室といってもいいのではないかということでした。世界中でお茶会を開かれている太田さんも「世界中どこでも茶室になる」とお話をされていました。

茶道やお茶会と聞くと、畳の上で行われるものというイメージがあったので、驚きました。

第2回目は、茶室について専門家の方からお話を伺うことができる貴重な機会となりました。この学びをもとに、より良いものがつくれるといいですね😊

桐浴さん、太田さん、京都市立芸術大学のみなさん、有斐斎弘道館のみなさん、ありがとうございました。お疲れさまでした！

